

Improvement Bio-type for Esthetic Restoration

講師：蘭 源太郎 先生

日時：平成29年11月26日(日)

場所：京都テルサ



吉岡 純希 (三重県)

平成29年11月26日に京都の京都テルサにて第3回関西支部研修会が行われました。

インプラントや補綴物の長期的安定を得るために必要なことは長期的に安定した歯周組織の獲得が必要という名のもと、FGGやCTGに関する一般的な知識および実際の症例を通して講演していただきました。

インプラント治療や補綴治療において長期的な予後を安定させるために、適切な歯周組織の獲得の重要性、生物学的幅径の獲得、適切な角化歯肉の獲得が大切ということを一を通して学ぶことができました。

私自身、FGGやCTGに対しては苦手意識がありましたが、実際の症例を通して切開の方法、移植片の採取方法、縫合の仕方など、基本的な内容を詳しく解説していただき、大変勉強になりました。また、歯周外科とは直接関係ありませんが、講演の中で先生がエンド治療を行う際に検知液を用いて徹底的にカリエスを除去する。と話をされていたのが私の中でとても印象に残りました。

どんな治療を行うにしても、基本的なことを徹底的に行うことの大切さを今回の講演で学ぶことができました。



今回学んだことを日々の診療で生かしていきたいと思います。

このような貴重な講演の機会を与えて頂き誠にありがとうございました。

